

科学コミュニティの問題

谷本 溶

University of Rome “Tor Vergata”

政策による科学のゆがみ・研究不正に関するシンポジウム
2023 年 4 月 16 日

自己紹介: 谷本溶

- 東京大学物理学科 (学士)、数理科学研究科 (修士)、ローマ大学トルヴェルガータ数学科 (博士)
- ローマ大学トルヴェルガータ数学科 准教授
- 数学的に厳密な場の量子論の研究
- (twitter で宮崎早野論文の議論に参加)
- 宮崎早野論文批判レター 2, 3, 4, 5 の共著者
- 宮崎早野論文批判レターの掲載拒否の顛末をまとめた論文
“The mishandling of...”, The Journal of Scientific Practice and Integrity の第一著者
- 掲載誌 (Journal of Radiation Protection), 出版社 (IOP publishing) との対応

普通起こるべきこと

科学論文に問題が発覚

- 著者に連絡 ⇒ 反論/訂正、撤回
- 雑誌にレター(コメント)論文を送る ⇒ 反論/訂正、撤回
- まともな反論/訂正がない場合、雑誌が他の専門家に聞く ⇒ 却下/訂正、撤回

研究不正(捏造、改ざん、盗用...)が疑われる場合

- 大学/研究所での調査 ⇒ 撤回勧告、処分など

宮崎早野論文について起こったこと

JoSPI, October 23, 2022. doi:10.35122/001c.38474

科学論文に問題が発覚

- 著者に連絡 ⇒ 著者からのアクションなし
- 雑誌にレター(コメント)論文を送る ⇒ (仮) 受理されるも、数カ月後掲載拒否 (“参加者の同意がないデータを使った論文への反論だから”)

レフェリーは肯定的、著者からの反論はなし。

- 雑誌からの内容、データについての問い合わせはなし ⇒ 原論文は不同意データの使用のみを理由に撤回、レター論文の内容はほぼ全部無視

研究不正（捏造、改ざん、盗用...）が疑われる場合

- 大学/研究所での調査 ⇒ 調査申し立てにある項目の一部、レターの内容は調査せず

宮崎早野論文は例外ではない

- 雑誌がまともな対応をしているとは限らない
 - 訂正、撤回に数年かかる、撤回理由を十分に説明しない
cf. [Accountability in Research](#), 29:6, 347-378 (2022)
- 大学や研究所がまともな対応をしているとは限らない
 - “研究不正” かどうか議論が集中し、科学的な内容が議論されることが少ない
cf. [Res Integr Peer Rev](#) 4, 3 (2019)
- 権威が一度 “問題ない” と決めてしまうと、覆す手段がない